

巻頭言

Jネット理事・運営委員

藤田 香代

あらためて列記してみるとめまぐるしく変わる世情とは、我々が肌で感ずるよりも、もつと劇しいものかも知れません。

「光陰矢の如し」等と云い乍ら、これほどの世情の変化に事もなく付いて行く、人間のいうものの感性のしなやかさに、改めて驚いている此の頃です。

(高田高女・北城高校同窓会東京支部会 会長)

「光陰矢の如し」とは昔から使い古された言葉ですが、近頃世情がめまぐるしく変化するせいか、又は私自身の加齢によりそう感じるだけなのか、正によく云ったものと思えるこのごろです。振り返れば、二〇一〇年は節目に当たたる行事が山ほどあった年でした。

先ず、「東京新潟県人会」は発足百周年を迎えて新潟県と協賛で新潟市「朱鷺メッセ」に於いて、九月二十五日、二十六日、記念イベントが開催されました。我がJネット会長和久井さんも重要なスタッフの一員として参加され、ほぼ一年間忙しい仕事で活躍されました。先日各イベントも盛会の裡に幕を閉じました。本当にお疲れさまでした。

次に私の母校、「北城高校」も創立百周年を迎え、十月三十日、上越市上越文化会館に於いて「創立百周年記念式典」が催されました。その

折の記念講演会には小説家で『天地人』の著者として知られる火坂雅志氏が「天地人を語る、直江兼続の義と愛」の表題で熱く語られました。前年テレビの大河ドラマで一世を風靡した直江兼続伝でしたが、郷土の英雄譚でもあり、三十分近く延長する熱演でたいへん感銘深い講演でした。

さて大河ドラマと云えば、今年は幕末に移り「龍馬伝」が演じられていました。「黒船襲来」「大政奉還」「新撰組」等々、歴史物語の様を呈していますが、実際は、たかたか百五十年前のこと。ちなみに私の祖母は、元治元年生まれ、彼女が生まれた年は坂本龍馬は生きていて暗殺される三年前なのです。

龍馬が初めて見て肝をつぶした黒船はたしかに外輪船であったと思いますが、僅か百五十年ばかりの間にあの辺りには新幹線が走り、人間は月まで行き、アメリカまでは一日からずに行きます。

